

# News Letter

Foreign Student Service, Agriculture

## 130年前の日本人私費留学生

祖田 修

〔前評議員・農学研究科教授〕  
生物資源経済学専攻

約30年前、私は自分の農業経済研究を、前田正名という人物を中心に、明治期の地域振興研究から始めた。その時、初めての日本人留学生が、1860年代に幕府と薩摩藩によって、ヨーロッパへ派遣されたことを知った。空海などの中国行きも、留学の一種と見て良いであろうが、近代に入ってはこれが初めてであった。中でも私費で留学を試みたのは、前田正名が第1号ではないかと思う。彼らの動向について、幕府の方はよくわからないので、薩摩とくに前田を中心に書きたいと思う。

19名の留学生が、日本を発ったのは1865年（慶応元年）3月22日であった。イギリスのグラヴナー商会の汽船オースタライエン号で、この日鹿児島県串木野羽島を発った。五代才助（友厚）の進言に従い、先に留学生を送った幕府に対抗して、世界の大勢を見極めるためである。

ただ彼らは、すべて変名を用いていた。五代友厚は関研蔵、森有礼は沢井鉄馬、寺島宗則は出水泉蔵、そして一行の監督新納久修は石垣鋭之助といったぐあいである。後に活躍する人々である。当時はまだ、渡航が幕府によって禁止されていたので、一行は大島などに所用があって出張するとのもので、それぞれ変名を用い、密かに、しかし意気揚々と日本を離れたのである。

のちの『興業意見』の編纂者前田正名は、この壮挙に加わろうとして、その旨再三藩主に願ひ出たが容れられなかった。先の留学生のほとんどは20才以上だが、20才未満も14才、15才など3人あった。しかし3人はいずれも、島津家につらなる家柄の出身であり、前田正名は16才、貧乏な漢方医士族の出身であったためだろうか。ともかく前田の無念と衝撃は、はかりしれないものがあった。だが藩は前田の意欲を買って、当時の国内留学すなわち藩費による長崎遊学を許可したので、ヨーロッパ留学生たちを横目で見ながら、長崎へと向かったのであった。

海外留学への意志やみがたい前田は、同士3人で英和辞書（いわゆる薩摩辞書）を編み、これを売ってもとでとし、さらに大久保利通、大隈重信の推薦によって若干の留学補助を受け、ついに1869年（明治2年）コント・モンブラン伯とともに、フランスに向かう船上の人となった。モンブランは日本のフランス代理公使兼総領事、前田は外国御用係としてモンブランを助けるよう命ぜられていた。しかし実際には、仕事は皆無に等しく、前田は全く自由の身でパリに過ごすこととなった。彼はその後7年間パリに在住し、後に1881年（明治14年）にも、農商務大書記官として、1年間ヨーロッパ各国の経済事情調査に行っている。

前田は途中、ヨーロッパのアジア進出状況、異なる自然と風土、スエズ運河開鑿工事などを見聞、驚愕しつつパリに着く。パリではなお一層、高度の文明に圧倒される。前田は当初、モンブラン

と日仏語の交換教授などをして過ごす、しだいに弱気になっていき、「空しくパリの1年は過ぎた」と述懐している。日本はヨーロッパに、とうてい何もかも及びがたいと感じ、空虚はやがて絶望に変わったのである。

当時すでにパリに何人かの日本人留学生がいたが、前田は「とうていかなわないとの見解は自分だけでなく、友人達もそうだったとみえ、ついには精神病にかかり、あるいは割腹する者まで出た」と書いている。驚愕から苦悶と絶望へ、さらには悲惨な末路をたどるものが出たのである。彼らは母国日本では、格別のエリート階級であり、日本の期待を担って使命感に燃えていただけに、挫折感もまた深く大きかったに違いない。

現在の国際化状況を考えると、ヨーロッパ文明に驚き、絶望の淵に沈んだ百年前の日本人留学生に比べて、何という大きな差であろう。前田正名自身は数年パリに滞在するうち、フランス・ドイツの戦争、パリ・コミューンなどの社会的混乱に遭遇し、フランス行政の実際を体験するなかで、前記の絶望感を克服した。ヨーロッパといえども、人は皆同じで、日本は技術が遅れているだけだと感じるに至った。以後彼は懸命に農業の制度と技術を中心に学び、日本の地方産業近代化に大きな貢献をした。それにしても、およそ百年後日本がこれを追い越すほどの勢いを持つとは、前田も予想しなかったに違いない。

人が自ら自覚し懸命になると、大きな成果を生む。今は時代も違いますが、留学生への母国の期待も大きいことには変わりはない。農学部の留学生に頑張ってもらいたいものである。



農学部外国人留学生歓迎パーティで挨拶される筆者



日本雑感

田 興 軍

( 地域環境科学専攻  
外国人特別研究員, 中国 )

私は、1999年10月5日で、ちょうど5年間日本で生活したことになります。日本に来てから、まず、京都大学大学院農学研究科で半年間研究生として勉強、3年間の博士後期課程学生の生活を送り、そして日本学術振興会外国人特別研究員として、研究を続けました。ほとんど研究室で5年間の生活を送りましたが、日本の社会を少し理解しました。

日本では、道路の表示やルールなどは壁のようで、誰も越えません。昼でも夜でも守ります。私は今でも忘れないことが一つあります。ある日の夜、私は友達の家パーティに参加しました。皆の話が盛り上がり、夜2時ぐらいに家に帰る途中で、百万遍の横断歩道に着いたところ、ちょうど赤信号になりました。その時、車などは全然ありませんでした。私の前に50代の方が一人いました。彼は赤信号を見て、すぐ待ってしまい、緑信号に変わってから、横断歩道を渡りました。私も信号に従い、2分間ぐらい待ちました。それは小さなことでしたが、日本人がルールを守ることが見受けられました。交通といえば、電車、

バスなどでも、各駅にスケジュールがあります。そのスケジュールは乗客と運転手の両方が守るルールです。電車は確実にスケジュールに従って到着し、停まる場所も決まったところに停まります。確実ですから、乗客も駅までの時間を計算して、出来るだけ駅で短く待つようにします。ですから、日本の各駅で電車などを待っている乗客は少ないです。もちろん日本の電車の本数が多いということもあります。

研究室は、家庭のようです。誰でもほかのところに観光、学会出席、調査などに出かける時、移動スケジュール、連絡先を研究室に知らせ、目的地に到着後、はがきなどで無事だという情報を研究室に送ります。帰ってくる時には、お土産の一つ買ってくるので、研究室には、家族の雰囲気を感じられます。毎年新人の歓迎パーティ、就職する人の追いコンなど、皆仲良く新人歓迎、社会人になる方のお祝いをするのは、家庭の行事のようです。私は日本に来たばかりの頃、家族を連れていませんでした。その年の12月20日、研究室で私の誕生日のお祝いを開いてもらいました。その時には、驚きと感謝など複雑な気持ちが入り混じり、研究室という家族の一人になったという実感がしました。今でも忘れません。研究室では、研究室の物と個人の物をはっきり区別します。研究室の物は個人の物より大切にしています。電話でも、個人的電話は出来るだけ自分のカードを使って、公衆電話ボックスからかけます。研究室の電話を使っても、電話代を支払います。自分のことを自分でやります。他の人に迷惑がかからないようにしています。他人の立場で考えることが多いです。

私は、日本に来る前の専門は植物分類でした。室内の実験は全くありませんでした。日本に来て、生態学に変わっ

留学生室担当教官の人事異動  
と新しい留学生室担当助教授

たなか うえる  
田中 樹氏のプロフィール

平成5年4月から留学生室担当教官として活躍された野淵 正助教授が、平成11年6月1日付で本学農学研究科森林科学専攻教授として転出されました。長い間、本当にありがとうございました。後任として、本学農学研究科地域環境科学専攻の助手・田中 樹氏(写真)が、平成11年9月1日付で留学生室担当助教授として着任されました。

田中 樹氏は弘前大学農学部を御卒業後、1983年～1987年、ケニア共和国ジョモケニヤッタ農工大学講師(土壌学)に就任され、帰国後、京都大学大学院農学研究科修士課程(農芸化学専攻)に入学されました。その後、同大学院博士後期課程途中で、農学部農芸化学科土壌学研究室(現、農学研究科地域環境科学専攻土壌学分野)の助手になられ、1998年～1999年には、フランス・ORSTOM モンベリエセンターにて国際共同研究(FASID 研究フェロー)を行っておられます。御専門は、土壌学・在来農法論で、国内では、「土壌表層物理性の悪化機構の解明」や「団粒安定性の評価法」に、海外では、主に東西アフリカの半乾燥熱帯圏において「沙漠化プロセスの解明」や「在来農法下の土壌管理技術(人為・土壌の相互連関)」に関する研究に取り組んでおられます。



このように、田中 樹氏はアフリカ・フランスと国際的に活躍されており、留学生室の仕事にも意欲を持っておられます。御本人の抱負を以下に御紹介いたします。「比較農業論とは『人為と環境』を包括的に捉える学問領域だと考えます。まずは、留学生諸氏との交流を通じて、研究・教育や相互理解のための広い視野を養いたいと思います。フィールド科学としての農学研究・教育活動・国際交流などに幅広く取り組み、留学生室・比較農業論講座の更なる充実にお役に立てれば幸いです。」

同氏の今後の御活躍を大いに期待いたします。

赤松美紀

(農学部留学生室・助教授)

て、室内で実験しないといけなくなり、装置の使い方、薬品の配置、標準試料の作り方など、先生たちや友達から詳しく教えてもらいました。先生はどんなに忙しくても、何か質問すれば、すぐ答えをくださいました。皆さんのお陰で、3年後、農学博士号を無事に取り、日本学術振興会の外国人特別研究員になりました。私が日本で行う研究は、森林におけるリターの分解過程です。調査地は寒帯から熱帯に移りました。分解というのは森林生態系で大きな割合を果たします。近年、環境問題、地球温暖化の問題などを解決するため、分解の研究が進んでいます。この5年間、武田博清先生の指導の元で、また他の先生方と研究室の友達の協力の下に研究を行い、一応の成果を得ました。5年間に、日本国内学会に毎年二、三回参加し、国際学会にも三回参加しました。広い面での学术交流ができたと思います。この5年間、農学部留学生室のバス見学に毎回参加

し、留学生課の見学旅行にも参加しました。日本の文化を少しずつ理解し、美しい景色を見ました。日本の近代化と都市と農村一体化を実感しました。5年間は人生の一部としては短いとはいえませんが、日本社会の理解はまだまだです。私にとっては学問だけではなく、色々な面において大変勉強になりました。その間に得た知識と経験は、自分の将来にとって、非常に貴重な財産だと思います。

最後に、私は5年間地域環境科学専攻森林生態学研究室で勉強してきましたが、森林生態学研究室の皆さんには大変お世話になりました。特に私の指導教官である武田先生には、大変ご指導ご鞭撻をいただき、ありがとうございました。私を生態学研究室に入学させて下さり、今は退官された岩坪五郎先生にもお礼を申し上げます。この5年間、生活費を支援していただいた文部省と日本学術振興会にも心より感謝致します。

## Let's Join Our Japanese Language Class!

### 日本語教室の紹介

農学部留学生室の日本語教室を担当させていただいてから、早いもので4年が経過しました。その間色々な国の留学生の方々と接し、文化や風習の違いに戸惑いながらも、学生の皆さんと一緒に楽しく勉強して参りました。

農学部の留学生の多くは、実習や実験、講義で時間がなかなかとれず、教室に時々しか顔を見せられないため、日本語を勉強しようという意欲はあるのに気の毒に感じます。でも、最近は日本語教室への新入生の参加が増えてきました。留学生の家族の方も時々来られます。初めての日本の生活に慣れず、最初は友人もいない留学生や家族の方々に、少しでも楽しく過ごしてもらうことにこの教室が役立てばと考えています。

また、既に母国であるいは来日してから日本語を学んでいて、せっかく日本に来たのだから、将来のために日本語能力検定試験の資格を取ることで、日本語能力のレベルを上げたいという人が増えてきました。今年は10人程挑戦します。時間の合間をぬって熱心に参加してもらっています。

そして、時間のない学習者には自学習できるコンピュータソフトや月刊『日本語ジャーナル』、テープなどを購入し、少しずつ充実して来ました。

残念なことに、私共の日本語教室はまだ知名度が低く「こんなクラスがあることを知らなかった」と、新聞を読んだり、コンピュータを使い留学生室に来て初めて知った学生も割合います。日本語教室は下記の時間割で、留学生室で行っていますので、興味のあるクラスに、是非参加してみてください。

### 日本語教室時間割

(Schedule of Japanese Language Classes at Foreign Student Advisor's Office)

#### 木曜日 (Thurs.)

- 1:00 p.m. ~ 2:00 p.m. 入門会話クラス (Beginners' class)
- 2:00 p.m. ~ 3:00 p.m. 初級会話クラス (Elementary class)
- 3:00 p.m. ~ 3:30 p.m. 漢字クラス (Kanji class)

#### 金曜日 (Fri.)

- 1:00 p.m. ~ 2:00 p.m. 中級読解クラス (Intermediate class I [reading])
- 2:00 p.m. ~ 3:30 p.m. 中級聴解クラス (Intermediate class II [listening])
- 3:30 p.m. ~ 4:30 p.m. 日本語検定対策 (Class for Japanese language test)

### 日本語教室のあれこれ

『気楽に楽しく勉強』: お茶の時間を設け、各国のお茶菓子を食べながらそれぞれの国の紹介をする。

『資格を取る』: 各人のレベルに合わせて、12月に行われる日本語能力検定試験合格を目標に、過去問題集に取り組む。

『日本の文化にふれる』: 能、お茶会、美術館、バザーなど特に外国人向けのプログラムを紹介することによって、日本文化に触れる機会を増やす。

『学習者同士の交流を深める』: 学期の終わりにそれぞれの国の料理を持ち寄り、パーティをする。

出来るだけひとりひとりのニーズにあった授業をと思案している毎日です。

日本語教室講師 福本 和代

(Instructor of Japanese Language: Kazuyo Fukumoto)

### 参加者の声

This Japanese class is very useful for my study, because I had opportunity to access easily, since the location is very convenient for my laboratory. I have attended this class since last year and I could improve my reading and listening skills. The main advantage is that, thank to teacher Fukumoto, the study program has been flexible, depending on student's knowledge, and effective. (Italy)

日本語の勉強をするのはとても楽しいです。なぜなら、福本先生がとてもやさしいから、勉強が楽しみになったのです。本当にありがとうございます。でも、最近は私の時間があまりなくて、参加できないのが残念です。(インドネシア)



平成11年度前期終了後のパーティ

私の場合は、最初、日本語を全然しゃべることができなかったのですが、福本先生のおかげで今は生活対話ぐらいはできるようになっています。授業の雰囲気もいいし、先生もやさしいし、とてもおもしろい授業です。(韓国)

家族的な雰囲気で勉強が楽しく進んでいるので、授業の時間が心待ちになります。(韓国)

先生がすごくやさしくて、さまざまな国から来た人々がいておもしろいです。(韓国)

授業の中で、私が思いつかなかったいろいろな話題が出ますから、いろいろと勉強になります。また、雰囲気がとてもいいので楽し

いです。先生のやさしさも気が楽になります。これからもよろしくお願いします。(韓国)

週2回だけの日本語の授業ですが、みんなで仲良くしていますから楽しいです。留学生にとってこの授業はとてもいいチャンスだと思います。ぜひ、1回見に来て下さいね。(中国)

日本語検定一級試験のために週に1回、ここで日本語の勉強をしています。先生は、ちゃんと、試験のために、聴力とか文法の対策とかを教えてくださいます。試験にきつと役に立つと思います。留学生室の方々は、すごく留学生達の日本語能力のために考えて努力して下さっているように思います。(中国)

## 農学部国際交流ニュース

### 新入留学生のためのオリエンテーションと歓迎パーティ

平成11年度、農学研究科は17ヵ国から27名の新入留学生を迎えました。4月12日、オリエンテーションに引き続いて、教職員および在学留学生約150名の参加を得て、恒例の歓迎パーティが農学部大会議室で盛大に行われました。開催に当たり、農学部国際交流推進後援会より援助ならびに御高配を賜りましたので、感謝いたします。

### 農学部国際交流推進後援会の会員加入について

本年は、7月に平成11年度の会員加入のお願いを御案内いたしました。本年度も学内および学外の多くの方々(9月末日現在で178名、2団体)からご賛同をいただいております。

### バス見学旅行

平成11年5月20日、農学部のスクールバスを利用した日帰りのバス旅行を実施しました。最近、奈良の文化財が世界遺産にも指定されましたが、その一つである法隆寺と、タマノイ酢奈良工場を訪問しました。タマノイ酢では、家庭でよく使われるお酢の製造過程を見学し、また、醗酵原料や醸造副産物から抽出される抗腫瘍活性物質、お酢の効能などについても詳しく教えていただきました。

### 見学旅行

平成11年度も、農学部留学生見学旅行(7月14日~16日)を企画し、総勢13名が、和歌山県大島の京都大学附属亜熱帯植物実験所、三重県鳥羽市のミキモト真珠島・伊勢神宮などを訪問しました。亜熱帯植物実験所ではさまざまな種類のツバキなど南国の植物を見せていただき、宿泊させていただきました。夕食は自炊でしたので、留学生が全員協力してそれぞれのお国自慢のごちそうを作り、実験所の先生方も一緒に和気あいあいと楽しく過ごしました。また、ミキモト真珠島では、真珠の形成される様子について見せていただくとともに説明を伺いました。ほとんどの留学生にとって初めて得た知識で、熱心な質疑応答が行われました。

### 私費外国人留学生の大学院修士課程入試の結果

8月25日~27日にかけて、平成12年度大学院修士課程入

試が実施されました。その結果、応用生命科学専攻1名(台湾)、応用生物科学専攻1名(韓国)、森林科学専攻1名(中国)の方々が私費外国人留学生として合格されました。

### 短期留学推進制度

平成11年度の短期留学推進制度(派遣)には2名の応募者があり、生物生産科学科の学生1名がウブサラ大学に派遣されることになりました。



平成11年度バス見学旅行  
(タマノイ酢奈良工場前で)



平成11年度見学旅行(大島の港にて)

発行所 京都市左京区北白川追分町  
京都大学農学部留学生室  
電話 (075)753-6298, 6299

印刷所 京都市上京区下立売通小川東入  
中西印刷株式会社  
電話 (075)441-3155~8